

7 様式例

(1) 個別の教育支援計画

取扱注意

個別の教育支援計画

学校・園名			
(ふりがな) 氏名			
年度	年度	年度	年度
学年・組	年 組	年 組	年 組
学びの場	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 (障がい種別) <input type="checkbox"/> 特別支援学級 (障がい種別)	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 (障がい種別) <input type="checkbox"/> 特別支援学級 (障がい種別)	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 (障がい種別) <input type="checkbox"/> 特別支援学級 (障がい種別)
確認日	月 日	月 日	月 日
③保護者	<input type="checkbox"/> 内容を確認しました。 <input type="checkbox"/> 内容を支援関係者と共有することに同意します。 <input type="checkbox"/> 内容を進学先等に引き継ぐことに同意します。	<input type="checkbox"/> 内容を確認しました。 <input type="checkbox"/> 内容を支援関係者と共有することに同意します。 <input type="checkbox"/> 内容を進学先等に引き継ぐことに同意します。	<input type="checkbox"/> 内容を確認しました。 <input type="checkbox"/> 内容を支援関係者と共有することに同意します。 <input type="checkbox"/> 内容を進学先等に引き継ぐことに同意します。
②校長			
①担任			

取扱注意

個別の教育支援計画

年 月 日記入者()
 年 月 日記入者()
 年 月 日記入者()

【プロフィールシート】

ふりがな 幼児児童生徒 氏名		幼 児 児 童 生 徒 住 所	〒 - 電話番号 () -
生 年 月 日	年 月 日	年 齢	歳
ふりがな 保 護 者 氏 名	続柄 []	保 護 者 住 所	〒 - 電話番号 () -
① 診断名・疾患・病名	※診断書から転記		
② 手帳の有無	療育手帳	(等級) (交付年月日)	
	身体障害者手帳	(等級) (交付年月日)	
	精神障害者保健福祉手帳	(等級) (交付年月日)	
	無		
③ 使用している 装具等	・眼鏡、その他 () ・車椅子 ・歩行補助つえ ・下肢装具 ・補聴器 (片耳{右・左}、両耳) ・人工内耳 (片耳{右・左}、両耳) ・その他 ()		
④ 医療的ケアの 有無	有 (吸引 経管栄養 導尿 酸素吸入 その他 ())		
	無		
⑤ アレルギーの 有無	有 ()		
	無		
⑥ 服薬の有無	有 ()		
	無		
⑦ 家族構成	父・母・兄 () 人・姉 () 人・弟 () 人・妹 () 人・祖父・祖母・ その他 ()		
⑧ 生育歴	新生児期	・在胎週数 (週) ・出生時体重 (グラム) ・分娩状況 (仮死、帝王切開、その他 ()) ・黄疸 (重・軽・なし) ・その他 ()	
	発育	・首のすわり (月頃) ・おすわり (月頃) ・発語 (月頃) ・歩きはじめ (月頃) ・排泄の自立 (月頃)	
	健診時に 関する特 記事項	指摘事項 有・無 ※健診時期 (1歳半・3歳児・5歳児健診等) において指摘事項 等がある場合に記載。また未受診の場合はその旨を記載。	
⑨ 療育歴 教育歴	幼児期	療育機関 ()	年 月 ~ 年 月
	小学校	通級による指導 (障がい種別)	年 月 ~ 年 月
		特別支援学級 (障がい種別)	年度 ~ 年度

		中学校	通級による指導（障がい種別）	年 月 ～ 年 月
			特別支援学級（障がい種別）	年度 ～ 年度
		特別支援学校	学校名（障がい種別）	年度 ～ 年度
⑩	受診・診察状況	※受診歴等があれば、時期や主治医を記載。 ※医師等の指示による日常生活における配慮事項等があれば記載。		
⑪	現在の状況 学校等における 適応状況・得意 なことや好きな こと・困難を感じ ている事項等	言語、文字・数概念		
		学習態度		
		運動機能		
		感覚 ※視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚などの感覚に偏りがある。（日常的 な雑音にひどく不快感を示す、身体に触れられるのを過剰に嫌が る、など）		
		対人関係		
		基本的生活習慣		
⑫	検査等	※知能検査や発達検査等、諸検査の結果があれば、検査名・実施機関・実施 日・結果を記載。 ※実施している診断テスト、教研式知能検査等の結果や変容があれば記載。		
⑬	個別の教育支援 計画（支援計 画）・個別の指 導計画の有無	個別の教育支援計画 （支援計画）	有（ 年 月 日から作成） 無	
		個別の指導計画	有（ 年 月 日から作成） 無	
⑭	関係機関	支援期間		
		機 関 名		
		担 当 者		
		支援内容		
⑮	備考	※障がいのある外国人児童生徒等に関する必要な情報等、①～⑭に記載できない プロフィールを記載。		

※毎年度、本人の状況や関係機関等について確認・修正しましょう。

取扱注意

【支援シート】

幼児児童生徒氏名()

年 月 日記入者()

①本人の願い			
②保護者の願い			
支援の方向性	③支援目標	<3年間(年生～ 年生)の支援目標>	
		<1年間(年生)の支援目標>	
	④合理的配慮を含む支援内容	<合理的配慮の観点: >	
		<合理的配慮の観点: >	
		<合理的配慮の観点: >	
	⑤支援目標に対する関係機関等との連携	関係機関名	支援内容
評価	⑥支援目標の評価		
	⑦合理的配慮を含む支援内容の評価		
次年度への引継ぎ事項	⑧本人の願い		
	⑨保護者の願い		
	⑩支援目標		
	⑪合理的配慮を含む支援内容		
	⑫支援目標に対する関係機関等との連携		
備考	※上記の項目以外で必要な事項(支援する者が配慮すべき点など)があれば記載。		

※合理的配慮の観点は、126ページ「学校における『合理的配慮』の観点 代表例示」を参照。

<次年度の担任等に引き継いだ期日> 年 月 日 次年度担任等()

取扱注意

連携の記録(受診・懇談・会議・相談等)

幼児児童生徒氏名()

開催年月日	構成員(機関名)	主な内容
年 月 日	計 名	
年 月 日	計 名	
年 月 日	計 名	
年 月 日	計 名	
年 月 日	計 名	
年 月 日	計 名	
年 月 日	計 名	
年 月 日	計 名	
年 月 日	計 名	

個別の教育支援計画

- ★長期的な視点で作成するため、プロフィールシートは3年ごと、支援シートは1年ごとに書き込む様式を掲載しています。
- ★記載内容について、本人・保護者や、校内の関係者が同意しているという確認を行いましょ。
- ★切れ目ない支援のために、次年度の担任等へ確実に引き継ぎましょ。卒業等によって、学校種や学びの場が変わる場合も同様です。
- ★個人情報が含まれるため、関係機関等との情報共有に当たっては、事前に本人・保護者の同意を得ましょ。
- ★個別の教育支援計画は、指導要録の指導に関する記録の保存期間を参考に、5年間保存することが文書管理上望ましいと考えられます。学校の設置者である当該市町村(学校組合)教育委員会に、保存方法について確認しておましょ。
- ★学びの場の障がい種別には、通級による指導の場合は「言語障がい」「難聴」「発達障がい」、特別支援学級の場合は「知的障がい」「肢体不自由」「病弱」「弱視」「難聴」「言語障がい」「自閉症・情緒障がい」のうち、当てはまるものを記入ましょ。

学校・園名	〇〇市立〇〇小学校		
(ふりがな) 氏 名	とっとり たろう 鳥取 太郎		
年度	令和2年度	令和3年度	年度
学年・組	1年 あおぞら学級	2年 あおぞら学級	年 組
学びの場	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 (障がい種別) <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級 (知的障がい)	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 (障がい種別) <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級 (知的障がい)	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 (障がい種別) <input type="checkbox"/> 特別支援学級 (障がい種別)
確認日	4月24日	4月23日	月 日
③保護者	鳥取 一郎	鳥取 一郎	
	<input checked="" type="checkbox"/> 内容を確認しました。 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を支援関係者と共有することに同意ましょ。 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を進学先等に引き継ぐことに同意ましょ。	<input checked="" type="checkbox"/> 内容を確認しました。 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を支援関係者と共有することに同意ましょ。 <input checked="" type="checkbox"/> 内容を進学先等に引き継ぐことに同意ましょ。	<input type="checkbox"/> 内容を確認しました。 <input type="checkbox"/> 内容を支援関係者と共有することに同意ましょ。 <input type="checkbox"/> 内容を進学先等に引き継ぐことに同意ましょ。
②校長	◎◎ ◎◎	◎◎ ◎◎	
①担任	□□ □□	□□ □□	

取扱注意

個別の教育支援計画

令和2年4月20日記入者(□□ □□)

令和3年4月20日記入者(□□ □□)

年 月 日記入者()

【プロフィールシート】

ふりがな 幼児児童生徒氏名 生年月日	とっとりたろう 鳥取 太郎 平成25年5月5日	幼児児童生徒住所	〒680-0000 鳥取県〇〇市〇〇123番地 電話番号①(〇〇〇)〇〇〇〇-〇〇〇〇 ②(〇〇〇〇)〇〇-〇〇〇〇
ふりがな 保護者氏名	とっとりいちろう 鳥取 一郎 続柄[父]	保護者住所	〒 - 同上 電話番号() -
① 診断名・疾患・病名	知的障がい		
② 手帳の有無	療育手帳	(B) (令和3年4月10日交付)	
	身体障害者手帳	(等級) (交付年月日)	
	精神障害者保健福祉手帳	(等級) (交付年月日)	
	無		
③ 使用している 装具等	<input checked="" type="checkbox"/> 眼鏡、その他()・車椅子 <input checked="" type="checkbox"/> 補聴器(片耳{右・左}、両耳) <input type="checkbox"/> その他()		
④ 医療的ケアの 有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有(吸引 経管栄養 導尿) <input type="checkbox"/> 無		
⑤ アレルギーの 有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有(卵(生)、アレルギー性鼻炎) <input type="checkbox"/> 無		
⑥ 服薬の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有(〇〇〇〇(朝、夕)) <input type="checkbox"/> 無		
⑦ 家族構成	<input checked="" type="checkbox"/> 父・ <input checked="" type="checkbox"/> 母・ <input checked="" type="checkbox"/> 兄(1)人・姉()人・弟()人・妹()人・ <input checked="" type="checkbox"/> 祖父・ <input checked="" type="checkbox"/> 祖母・その他()		
⑧ 生育歴	新生児期	<input checked="" type="checkbox"/> 在胎週数(〇週)・出生時体重(〇〇〇〇グラム) <input checked="" type="checkbox"/> 分娩状況(仮死、帝王切開、その他()) <input checked="" type="checkbox"/> 黄疸(重・軽・ <input checked="" type="checkbox"/> なし)・その他()	
	発育	<input checked="" type="checkbox"/> 首のすわり(〇月頃)・おすわり(〇月頃)・発語(〇月頃) <input checked="" type="checkbox"/> 歩きはじめ(〇月頃)・排泄の自立(〇月頃)	
	健診時に 関する特 記事項	<input checked="" type="checkbox"/> 指摘事項 <input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 3歳児健診で言葉の発達の遅れについて指摘があった。 〇〇児童発達支援センターを紹介された。	
⑨ 療育歴 教育歴	幼児期	療育機関(〇〇児童発達支援センター)	平成28年9月～令和2年3月
	小学校	通級による指導(障がい種別)	年月～年月
		特別支援学級(知的障がい)	令和2年度～年度
	中学校	通級による指導(障がい種別)	年月～年月
		特別支援学級(障がい種別)	年度～年度
特別支援学校	学校名(障がい種別)	年度～年度	

プロフィールシートの内容は、詳細な個人情報のため、保護者に記載していただくか、聞き取りながら記載します。保護者の希望で記入しない項目があっても構いません。
 加筆・修正は、新たなシートに記入するのではなく、このシートに記載していきます。その際、以前の記載事項は二重線を引くなどして残しておきます。また、記入日・記入者を記入します。

⑩	受診・診察状況	・半年に1回〇〇病院で定期受診しているが、特に治療中の疾患等はない。		
⑪	現在の状況 学校等における 適応状況・得意 なことや好きなこ と・困難を感じて いる事項等	言語、文字・数概念 ・絵本の読み聞かせが好きで、ひらがなやカタカナを進んで読もうとする。(家庭) ・簡単な会話のやり取りをしたり、口頭の指示を理解して行動したりできる。(学校) ・ひらがなやカタカナの読み書きができる。(学校) ・10までの足し算・引き算や、時計(〇時、〇時半)の読取ができる。(学校)		
		学習態度 ・学習に意欲的で、最後まで取り組むことができる。(学校) ・特に、絵画やダンス、絵本の読み聞かせの活動が好きである。(学校) ・初めてのことに抵抗感を示すことがある。(学校)		
		運動機能 ・習い事(ダンス)に楽しく通っている。動きは友達より遅れがちである。(家庭) ・協調運動や手先を細かく使う活動は苦手である。(学校)		
		感覚 ・視覚や聴覚、触覚の過敏性や鈍麻性は見られない。 (家庭・学校) ・食べ物の好き嫌が多い。(家庭・学校)		
		対人関係 ・友達との関係は良好で、休み時間には一緒に遊んでいる。(学校) ・友達の言葉をまねしたり、様子を見て行動したりしている。(学校)		
		基本的な生活習慣 ・食事や排泄、入浴は自分でできるが、時間がかかる。(家庭) ・学校の準備は一緒にしている。箸や体操服を忘れることがある。(家庭) ・衣服のボタンをかけ違えたり、前後を反対に着ていたりする。(学校)		
⑫	検査等	田中ビネー 令和〇年〇月〇日 IQ〇		
⑬	個別の教育支援 計画(支援計 画)・個別の指導 計画の有無	個別の教育支援計画 (支援計画)	<input checked="" type="checkbox"/> (平成28年10月1日から作成) 無	
		個別の指導計画	<input checked="" type="checkbox"/> (令和2年5月22日から作成) 無	
⑭	関係機関	支援期間	H28.9.1~現在	R2.4.10~現在
		機 関 名	〇〇医療センター	放課後等デイサービス〇〇
		担 当 者	〇〇医師	〇〇指導員
		支援内容	定期受診 (半年に1回)	余暇活動、コミュニケ ーション(月、木)
⑮	備考	保護者(母)は聴覚障がいがあり、日々の連絡は①携帯電話のショートメール②固定電話のファクシミリで行う。		

得意なことや好きなことを把握すると、支援の内容を検討する際の手掛かりとなります。
記入された情報が、家庭の情報か、学校の情報か、分かるように記入します。

関係機関には、放課後等デイサービスやフリースクール、適応指導教室、保育所等訪問支援事業を行う者(指定障害児通所支援事業者等)、保健所等も含まれます。

※毎年度、本人の状況や関係機関等について確認・修正しましょう。

取扱注意

【支援シート】

現在や将来の生活又は学習に関する希望について、本人や保護者の願いを聴き取り、相談しながら記入します。支援の内容に関する願いは、合理的配慮につながる意思の表明にも当たるので、本人・保護者と十分確認し、合意形成したもののについては④に明記します。本人や保護者の願いが、いつの時点のものか分かるように工夫して記入します。

令和3年4月20日記入者(□□ □□)

①本人の願い	・友達と楽しく勉強したい。ダンスが上手になりたい。(R3.3.10) ①本人の願いの把握が難しい場合は、支援者の観察や本人のつぶやき等から捉えます。保護者の願いと異なる場合もありますが、あくまでも本人の思いや願いを記載します。					
②保護者の願い	・自分でいろいろなことができるようになってほしい。自信をもって明るく生活してほしい。(R3.3.15) ・中学生になったら、特別支援学校に進学することも考えている。将来は一人暮らしできるとよい。(R3.3.15) ②卒業後の将来の姿を想像しながら、中・長期的な見通しも記載します。小・中・高等学校等への進学だけではなく、就労等への思いや願いなども記載します。					
支援の方向性	③支援目標	<3年間(小学1年生～3年生)の支援目標> ・手がかりを確認しながら、活動を進めることができるようにする。 ・自分の気持ちや必要な事柄を正しく伝えることができるようにする。 <1年間(小学2年生)の支援目標> ・手がかりを確認しながら、身支度や身なりを整えることができるようにする。 ・実際の活動を通して、相手に伝えたい言葉や表現を広げる。				
	④合理的配慮を含む支援内容	<合理的配慮の観点：①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮> ・身支度や身なりを自分で整えられるよう、イラスト入りの手順書を準備する。 <合理的配慮の観点：①-1-2 学習内容の変更・調整> ・実際の場面で気持ちや事柄が伝わるよう、言葉や表現を広げたり、事前に練習したりする。 <合理的配慮の観点以外> ・大好きなダンス教室や地域のイベント等に参加し、積極性や表現することへの意欲が高まるよう支援する。				
	⑤支援目標に対する関係機関等との連携	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:50%;">関係機関名</th> <th style="width:50%;">支援内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>〇〇特別支援学校 (担当 〇〇特別支援教育コーディネーター 2カ月に1回程度)</td> <td>実態を踏まえた教材や学習内容の助言(センター的機能の活用)</td> </tr> </tbody> </table> ⑤教育、家庭、医療や福祉などの関係機関等が一貫した支援を行うため、支援の目標に対する支援の内容を具体的に記述し、役割を明確にします。		関係機関名	支援内容	〇〇特別支援学校 (担当 〇〇特別支援教育コーディネーター 2カ月に1回程度)
関係機関名	支援内容					
〇〇特別支援学校 (担当 〇〇特別支援教育コーディネーター 2カ月に1回程度)	実態を踏まえた教材や学習内容の助言(センター的機能の活用)					
評価	⑥支援目標の評価	・身支度(家庭:次の日の準備、学校:下校の準備)と着替え(家庭:朝の着替え、学校:体育、給食当番)の場面では、手がかりを確認しながら自分で整えることができるようになった。 ・学んだ言葉や表現を見える形で示し、事前に練習してから活動に向かうことで、自信をもって伝える姿が増えた。 (R4.2.28)				
	⑦合理的配慮を含む支援内容の評価	・【①-2-1】は、引き続き、同様の合理的配慮が必要である。 ・【①-1-2】は、特に事前に練習を積むことが有効であった。 ・家庭と連携した取組により、本人の自信につながっている。 (R4.2.28)				
次年度への引継ぎ事項	⑧本人の願い	・いろいろなことが上手になりたい。				
	⑨保護者の願い	・生活の中で、自分でできることが増えてほしい。				
	⑩支援目標	・手がかりを活用しながら、自分で行動したり調整したりする場面を増やしていく。 ・普段の着替えは定着したので、手がかりを減らしていく。 ・事前練習を経て活動する経験を増やし、自信をつけたり、練習を実感したりできるようにしていく。				
	⑪合理的配慮を含む支援内容	・【①-2-1】【①-1-2】は、引き続き、必要であると思われる。				
備考	・保護者に学校の取組が分かりやすいよう、学校での様子を見える形で定期的に伝えるようにする。					

③支援目標を踏まえ、関連する各教科等の「個別の指導計画」において、指導の方向性を具体的に示していきます。

④支援目標の達成に必要な支援内容について、特に本人・保護者と合意形成した「合理的配慮」が分かるように記入します(合理的配慮の観点は、126ページを参照)。「個別の指導計画」に生かし、教科等横断的な視点で各教科等の指導を進めていくことが重要です。なお、合理的配慮の観点以外の支援内容も考えられます。

⑥支援の目標の評価、⑦合理的配慮を含む支援内容の評価は、⑧～⑫の引継ぎ事項の根拠となるものです。

合理的配慮の決定後も、発達の種類、適応の状況等を勘案しながら、合理的配慮は柔軟に見直し可能なことを共通理解することが重要です。支援の内容について見直す際は、十分な教育が受けられるために提供できているかという観点から評価することが大切です。

⑧～⑫次年度に引継ぎ事項を示すことで、担任や学校等が変わっても必要な支援について、切れ目なく確実に引き継がれることになります。

⑫については、関係機関の評価を聞き取った上で記入します。

<次年度の担任等に引き継いだ期日> 令和4年4月3日 次年度担任等(〇〇 〇〇)

取扱注意

連携の記録(受診・懇談・会議・相談等)

幼児児童生徒氏名()

開催年月日	構成員(機関名)	主な内容
年 月 日		
受診や懇談、会議、相談等の連携の記録を残し、幼児期から学校卒業後までの一貫した支援に役立てます。		
	計 名	
年 月 日		
	計 名	
年 月 日		
	計 名	
年 月 日		
	計 名	
年 月 日		
	計 名	
年 月 日		
	計 名	

(2) 個別の指導計画

① 自立活動用

年度 個別の指導計画【自立活動】

児童生徒名	年 組 []	作成者	
-------	--------------	-----	--

1 児童生徒の実態

(1) 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題等

--

(2) (1) の情報を、6区分で整理

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション

(3) (1) の情報を、学習上または生活上の困難の視点や、○年後の姿の観点から整理

--

2 長期目標(年間の指導目標)

--

3 必要な項目

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1) 情緒の安定に関する事	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	(1) 保有する感覚の活用に関する事	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	(2) 言語の受容と表出に関する事
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	(3) 言語の形成と活用に関する事
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		(4) 集団への参加の基礎に関する事	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	(4) 身体の移動能力に関する事	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
(5) 健康状態の維持・改善に関する事			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

4 具体的な指導内容(区分と項目・教科等・担当者)

--

5 短期目標(学期ごとの指導目標)と評価

	1学期	2学期	3学期
短期目標			
評価			

6 年間指導計画

	指導内容	指導場面 指導者	具体的な支援	評価・記録
1 学期				
2 学期				
3 学期				

(解説付き)

年度 個別の指導計画【自立活動】

児童生徒名	年 組 []	作成者	
-------	---------------	-----	--

1 幼児児童生徒の実態

(1) 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、長所やよさ、課題等

個々の障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境等の実態を的確に把握します。具体的には、基本的な生活習慣、人やものとの関わり、コミュニケーションの状態、対人関係や社会性の発達、視機能、聴機能、身体機能、知的発達や身体発育の状態、興味・関心、障がい理解に関すること、学習上の配慮事項や学力、特別な施設・設備や補助用具の必要性、進路、家庭や地域の環境等です。

(2) (1)の情報を、6区分で整理

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
(1)で収集した情報を、自立活動の区分の視点で整理することで、障がい名のみによって特定の指導内容に偏ることなく、対象となる児童生徒の全体像を捉えることができます。					

(3) (1)の情報を、学習上又は生活上の困難の視点や、〇年後の姿の観点から整理

次に、(1)で収集した情報を、学習上又は生活上の困難の視点で整理します。その際、学習上又は生活上の難しさだけでなく、既にできていること、支援があればできること等も記載すると、指導や支援のヒントになります。最後に、幼児児童生徒の生活年齢や学校・園で学ぶことのできる残りの年数を視野に入れ、「〇年後の姿」をイメージしたり、卒業・卒園までにどのような力を、どこまで育むとよいのかを想定したりして情報を整理します。

2 長期目標(年間の指導目標)

実態把握から明らかになった幼児児童生徒の「できること」「もう少しでできること」「援助があればできること」「できないこと」のうちから、その年度の指導目標の設定に必要な課題に焦点を当て、中心となる課題を選定します。
中心的な課題を踏まえ、課題を解決(改善)するための1年間の長期的な観点に立った指導目標を設定します。

3 必要な項目

1健康の保持	2心理的な安定	3人間関係の形成	4環境の把握	5身体の動き	6コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1) 情緒の安定に関する事	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	(1) 保有する感覚の活用に関する事	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	(2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	(2) 言語の受容と表出に関する事
(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3) 自己の理解と行動の調整に関する事	(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事	(3) 言語の形成と活用に関する事
(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		(4) 集団への参加の基礎に関する事	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	(4) 身体の移動能力に関する事	(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
(5) 健康状態の維持・改善に関する事			(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

指導目標が定まったら、それらを達成するために必要な項目を、自立活動の内容の6区分27項目から選定します。

4 具体的な指導内容(区分と項目・教科等・担当者)

選定した項目を関連付け、具体的な指導内容を設定していきます。その際、「指導目標を達成するためには、こんな力が必要である。したがって、区分〇〇の項目〇〇と、区分△△の項目△△を関連付けて指導する。」等、前述の課題同士の関連や中心課題を設定したプロセスを振り返りながら検討することが大切です。また、指導場面や指導者を明確にし、計画的・組織的に進めましょう。

5 短期目標(学期ごとの指導目標)と評価

	1学期	2学期	3学期
短期目標	1年間の長期目標を踏まえ、学期ごとの短期目標を定め、自立活動の指導の効果を高めます。その際、段階的に短期目標が達成され、それがやがて長期目標の達成につながるという展望を捉えておくことが重要です。また、その到達状況の具体的な姿を捉えておくことが重要です。		
評価	指導目標の実現に向けて、児童生徒等がどのように変容しているかを評価します。また、児童生徒等がどのような点でつまづいているかを明確にし、指導の改善につなげます。評価に当たっては、教師間の協力の下で適切な方法を活用して進めるとともに、多面的な判断ができるように、必要に応じて外部の専門家や保護者等と連携を図っていくことも大切です。実態に応じて、自己評価を取り入れ、自己理解や学習への意欲を高めます。		

6 年間指導計画

	指導内容	指導場面 指導者	具体的な支援	評価・記録
1 学期	<div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px; display: inline-block;"> 前ページで設定した1年間の長期目標、年間の指導内容、学期ごとの短期目標を踏まえて具体的な年間の指導計画を立て、組織的・計画的な指導に役立てます。 </div>			
2 学期				
3 学期				

②通常の学級用

年度 個別の指導計画【学校生活全般】

幼児児童生徒名	年 組 []	担任名	
幼児児童生徒の実態			
本人の 願			
保護者の 願			
長期目標 (1年間)			

	短期目標	具体的な支援(担当者)	評価
学習面			
生活面			
行動面			
社会性・ 対人関係			
支援チーム			

(解説付き)

年度 個別の指導計画

幼児児童生徒名	年 組「 」	担任名	
幼児児童生徒の実態	<p><実態把握>具体的内容(例) 基本的な生活習慣、人やものとの関わり、コミュニケーションの状態、対人関係や社会性の発達、視機能、聴機能、身体機能、知的発達や身体発育の状態、興味・関心、障がい理解に関すること、学習上の配慮事項や学力、特別な施設・設備や補助用具の必要性、進路、家庭や地域の環境 等</p>		
本人の願い			
保護者の願い	<p><長期目標>支援の柱となるもので、1年後の姿を想定する。 ○本人・保護者のニーズが高いもの ○児童生徒等の状態像にあっている課題 ○学校生活を円滑に送るために必要なスキル ○二次的な障がいへの対応もしくは予防 等</p>		
長期目標(1年間)			

	短期目標	具体的な支援(担当者)	評価
学習面	<p><短期目標>学期終了時や単元終了時の姿を想定する。 長期目標を達成するためのステップであり、今行うことにつながるもの 学習面、生活面、社会性・対人関係の中で優先順位をつけて設定 明確な評価を行うために、「条件(状況)」「行動」「基準」を記述 【例】・「条件(状況)」:ヒントが与えられた時、1対1の声かけで、 5人程度のグループ活動の時に ・「行動」:書くことができる、述べることができる、○で囲むことができる ・「基準」:80%以上、1日に1回、5回に1回、10問中8問</p> <p><具体的な支援(担当者)>支援内容を具体的に記入し、担当者も明確にしておく。 【例】(書くことへの支援) ・マス目の大きいワークシートや拡大コピーしたものや使いやすい道具等を準備し、必要に応じて選択できるようにしておく。 ・手元に板書内容の重要な箇所を書いたメモを置き、正確に板書をノート等に記録できるようにする。</p> <p><評価>達成の程度や有効だった支援、改善点等を具体的に記入する。</p> <p><支援チーム>チームを作り、多面的に実態把握や評価を行い、組織的に取り組む。</p>		
生活面			
行動面			
社会性・対人関係			
支援チーム			

(解説付き)

年度 個別の指導計画【教科等名】

児童生徒名		作成者	
実 態	<ul style="list-style-type: none"> ・習得状況、既習事項等 (目標・内容の一部又は全部を下学年に替えている場合は、その概要を明記) ・障がいによる学習上の困難さ、つまずきの傾向 ・当該教科等に関する興味・関心、得意なこと等 	指導上の配慮事項	<p style="text-align: center;">個々の実態を踏まえ、教科等の目標を達成するために必要な配慮事項を記入します。</p>

月	「単元名」 単元目標	時数	指導内容	具体的な支援	観点別評価			記録
					知識・技能	思考・判断 ・表現	主体的に学習に 取り組む態度	
			<p style="text-align: center;">個々の実態を踏まえ、適切に指導内容や指導方法、必要な支援を設定します。</p> <p style="text-align: center;">また、基礎的・基本的な事項の習得を目指す実態の場合、指導内容を適切に精選しましょう。</p>				<p style="text-align: center;">3つの観点に基づき、3段階(A・B・C)で評価します。</p>	<p style="text-align: center;">個々の学習状況やつまずき、効果的だった指導や支援を記録し、以降の単元や他教科の指導等に生かします。</p>
				(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)		

<p>1年間の評価と来年度に向けて</p> <p>○1年間の評価</p> <p style="margin-left: 20px;">◎</p> <p style="margin-left: 20px;">◎</p> <p style="margin-left: 20px;">◎</p> <p>○有効だった指導・支援</p> <p style="margin-left: 20px;">・</p> <p>○来年度に向けて</p> <p style="margin-left: 20px;">・</p>	<p>○1年間の評価</p> <p style="margin-left: 20px;">各単元の観点別評価を踏まえ、1年間の学習状況を評価します。</p> <p>○有効だった指導・支援</p> <p style="margin-left: 20px;">個々の実態に応じて行った指導・支援の工夫のうち、特に有効だったもの(次年度も継続するもの、教科等横断的な視点でも有効なもの等)を記載します。</p> <p>○来年度に向けて</p> <p style="margin-left: 20px;">教育課程の改善に向けた事項(指導目標の達成状況、指導内容の設定、時間数、指導形態、指導方法、教材・教具、関係機関との連携等)を記載します。</p>
---	--

④知的障がい特別支援学級用(各教科等)

年度 個別の指導計画【教科等名】

児童生徒名	年 組 []	作成者	
実 態		指導上の 配慮事項	

月	「単元名」 【教科別、日生、生単等】 ・単元目標 ・指導の形態	時数	指導内容	具体的な支援	評価・記録
					①…知識・技能 ②…思考・判断・表現 ③…主体的に学習に取り組む態度 (評価) ① ② ③ (記録) ・
					(評価) ① ② ③ (記録) .
					(評価) ① ② ③ (記録) .
					(評価) ① ② ③ (記録) .
					(評価) ① ② ③ (記録) .

1年間の評価と来年度に向けて ○1年間の評価 ① ② ③ ○有効だった指導・支援 ・ ・ ○来年度に向けて ・ ・

【学習グループ名・各教科等を合わせた指導名】年間指導計画

月	「単元名」 ・単元目標 ・合わせた教科等	時数	学習活動	指導・支援の工夫 ・有効だったこと ・改善が必要なこと 等	児童生徒の姿 ・活動への興味・関心や意欲 ・児童生徒の成長、変容 ・今後の課題 等

<p>1年間の評価と来年度に向けて</p> <p>○児童生徒（成長や変容、課題等）</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>○指導（成果の大きかった単元や指導・支援の工夫、改善が必要なこと等）</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>○来年度に向けて（単元、教材・教具、指導体制、時間数等）</p> <p>・</p> <p>・</p>

(解説付き)

年度 個別の指導計画【教科等名】

児童生徒名	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障がいの教科の段階 ・習得状況、既習事項等 ・障がいによる学習上の困難さ、つまずきの傾向 ・当該教科等に関する興味・関心、得意なこと等 	作成者	
実 態		指導上の 配慮事項	個々の実態を踏まえ、教科等の目標を達成するために必要な配慮事項を記入します。

月	「単元名」 【教科別、日生、生単等】 ・単元目標 ・指導の形態	時数	指導内容	具体的な支援	評価・記録 ㊦…知識・技能 ㊧…思考・判断・表現 ㊨…主体的に学習に取り組む態度 (評価)
(例) 4	(例) 「時刻と時間」 【教科別】 ・時刻の読み方や、簡単な時間の求め方を理解し、日常生活で使うことができる。	(例) 4	(例) ・午前(午後)〇時〇分と正しく時刻を読む。 ・〇分(時間)後、〇分(時間)前の時刻が分かる。 ・24時間制の時刻の読み方に慣れる。		
(例) 4 5	(例) 「修学旅行に行こう」 【生単】 ・友達と協力し、グループ行動の計画を立てることができる。 ・しおりやスケジュール表を活用し、見通しをもって活動できる。 ・旅行を振り返り、自分が体験したことや知り得た情報を伝えることができる。	(例) 4	(例) ・食事や入浴、集合時間に間に合うように、スケジュールの〇分前を計算し、〇分前行動をする。		
			各教科等を合わせた指導における当該教科のおおよその時間数を設定します。		
					<p style="text-align: center;">各教科等を合わせた指導についても、各教科等の目標に準拠した学習評価が必要です。</p> <p style="text-align: center;">そこで、各教科等を合わせた指導で取り扱っている教科の内容についても、教科ごとの個別の指導計画に記載することで、指導の形態に関わらず、当該教科に関して児童生徒が1年間でどのような学びをするのか、全体像を捉えることができます。</p> <p style="text-align: center;">また、教科別の指導と各教科等を合わせた指導との関連が図りやすくなり、カリキュラム・マネジメントにも役立ちます。</p>
					㊦ ㊧ ㊨ (記録)

1年間の評価と来年度に向けて <input type="checkbox"/> 1年間の評価 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 有効だった指導・支援 ・ ・ <input type="checkbox"/> 来年度に向けて ・ ・
--

【学習グループ名・各教科等を合わせた指導名】年間指導計画

月	「単元名」 ・単元目標 ・合わせた教科等	時数	学習活動	指導・支援の工夫 ・有効だったこと ・改善が必要なこと 等	児童生徒の姿 ・活動への興味・関心や意欲 ・児童生徒の成長、変容 ・今後の課題 等
	<p>各教科等を合わせた指導は、生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、学習や生活の流れに即して学んでいくものです。</p> <p>単なる「教科等の盛り合わせ料理」ではなく、「教科等が溶け合った料理」のようなものです。</p> <p>教科ごとの個別の指導計画により、各教科の目標に準拠した計画と評価を進めていく一方で、このような各教科等を合わせた指導のよさを失わないよう留意することが大切です。</p> <p>そのためにも、教科ごとの個別の指導計画だけでなく、各教科等を合わせた指導の年間指導計画を作成することが望まれます。</p>				

<p>1年間の評価と来年度に向けて</p> <p>○児童生徒（成長や変容、課題等）</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>○指導（成果の大きかった単元や指導・支援の工夫、改善が必要なこと等）</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>○来年度に向けて（単元、教材・教具、指導体制、時間数等）</p> <p>・</p> <p>・</p>

(3) 年間の単元(題材)配当表

参考様式(中学校知的障がい特別支援学級の例)

(年 組 氏名)

		当該 下学年(○年) 知的(段階)	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月
学校行事								
教科別の指導	国語							
	社会							
	数学							
	理科							
	音楽							
	美術							
	保健体育							
	外国語							
	職業・家庭							
	道徳科							
領域別の指導	特別活動							
	自立活動							
各教科等を 合わせた指導	日常生活の 指導 (合わせた教科)							
	生活単元 学習 (合わせた教科)							
総合的な学習の 時間								

参考様式(中学校知的障がい特別支援学級の例)

(年 組 氏名)

		当該 下学年(○年) 知的(段階)	11月	12月	1月	2月	3月	教育課程の 評価と次年度 に向けた改善
学校行事								
教科別の指導	国語							
	社会							
	数学							
	理科							
	音楽							
	美術							
	保健体育							
	外国語							
	職業・家庭							
道徳科								
領域別の指導	特別活動							
	自立活動							
各教科等を 合わせた指導	日常生活の 指導 (合わせた教科)							
	生活単元 学習 (合わせた教科)							
総合的な学習の 時間								

参考様式(中学校知的障がい特別支援学級の記入例)

(〇年〇組 氏名〇〇 〇〇)

		当該 下学年(〇年) 知的(段階)	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月
学校行事			始業式 入学式	運動会		修学旅行		学校祭
教科別の指導	国語	知的 (中1段階)	・自己紹介 ・国語辞典	・詩を読もう、詩 を作ろう	・物語を読もう	・修学旅行の思 い出を伝え合 おう	・敬語を使って 話そう	・敬語を使って 話そう
	数学	知的 (中1段階)	・時刻と時間 ・時計を読もう	・カレンダーを使 おう	・グラフを使って 表そう	・いろいろな順 番	・時刻表を読もう	・買いものをしよ う ・半額はいくら
	音楽	知的 (中1段階)	・校歌 ・歌声合わせて	・トーンチャイム	・和太鼓「〇〇 囃子」	・和太鼓「〇〇 囃子」	・ボディパーカッ ション	・ボディパーカッ ション
	美術	知的 (中1段階)	・レタリング	・鉛筆スケッチ	・陶芸をしよう	・陶芸をしよう	・オリジナルロゴ を作ろう	・オリジナルロゴ を作ろう
	保健体育	知的 (中1段階)	・集合、整列 ・体ほぐし運動 ・新体力テスト	・リレー ・100m走 ・交流種目	・保健 ・水泳	・水泳	・バスケットボー ル	・バスケットボー ル ・性教育
領域別の指導	特別活動		・新入生を迎え る会 ・学級目標	・仲間作り ・生徒会選挙	・防災教育 ・交通安全教室 ・高校生の生活	・情報モラル ・1学期のまとめ をしよう	・生徒会選挙 ・防災教育 ・学級の成長	・高校生の生活 ・ボランティア活 動の意義
	自立活動		・バランスボード 数と色のマッチング、左右のペアリング ・仲間分け、仲間集め 気持ちカード、振り返り					
各教科等を 合わせた指導	日常生活の 指導 (社、職、家、保)	知的 (中1段階)	・登下校、自立的な通学、公共交通機関のマナーと交通ルール、挨拶 ・身支度、衣服の着脱、健康管理 排泄(トイレ) 清潔、手洗い 係活動、日課・予定 ・体カづくり(ランニング) 給食、食事のマナー、歯磨き 休憩(余暇) 掃除					
	生活単元 学習 (国、数、社、理、職・ 家、道、自、特)	知的 (中1段階)	・新入生を歓迎 しよう	・運動会を成功 させよう	・修学旅行に行 こう	・修学旅行に行 こう	・学校祭を成功 させよう	・学校祭を成功 させよう
総合的な学習の 時間			・こんにちは、先 生(国際理解: アメリカ)	・この町大好き (地域交流:自 然)	・この町大好き (地域交流:産 業)	・この町大好き (地域交流:文 化)	・こんにちは、先 生(国際理解: アメリカ)	・この町大好き (地域交流:文 化)

		当該 下学年(〇年) 知的(段階)	11月	12月	1月	2月	3月	教育課程の 評価と次年度に向 けた改善
学校行事			社会体験				卒業式	教科等の時間数 ・行事等との関連
教科別の指導	国語	知的 (中1段階)	・説明書を読もう	・年賀状を書こう	・書き初めをしよう	・新聞を読もう	・感謝の手紙を 書こう	教科等 同士の関 連
	数学	知的 (中1段階)	・収入と支出	・生活の中のい ろいろな図形	・単位に気を付 けて計ろう	・予算内で買 いものをしよう	・生活の中の分 数と少数	地域や家庭との 連携
	音楽	知的 (中1段階)	・音の重なりを 楽しもう	・音の重なりを楽 しもう	・オリジナルソ ングを創ろう	・スペシャルコ ンサート	・旅立ちの歌	交流及び共同学 習
	美術	知的 (中1段階)	・オリジナルカ レンダー	・オリジナルカ レンダー	・版画	・版画	・自画像を描こう	運用上の留意点 効果的だったこと 等
	保健体育	知的 (中1段階)	・マラソン大会	・器械運動	・保健 ・柔道	・ダンス	・ポッチャ ・風船バレー	
領域別の指導	特別活動		・将来の生き方 ・心と身体の内 容	・私たちの財産 ・有意義な生活	・卒業制作 ・高校生に向け て	・卒業制作 ・卒業文集	・卒業を祝う会 ・後輩へメッセ ージ	
	自立活動		・バランスボード 数と色のマッチング、左右のペアリング ・仲間分け、仲間集め 気持ちカード、振り返り					
各教科等を 合わせた指導	日常生活の 指導 (社、職、家、保)	知的 (中1段階)	・登下校、自立的な通学、公共交通機関のマナーと交通ルール、挨拶 ・身支度、衣服の着脱、健康管理 排泄(トイレ) 清潔、手洗い 係活動、日課・予定 ・体カづくり(ランニング) 給食、食事のマナー、歯磨き 休憩(余暇) 掃除					
	生活単元 学習 (国、数、社、理、職・ 家、道、自、特)	知的 (中1段階)	・収穫祭をしよ う	・がんばったね 会をしよう	・ハッピーウ ィンター	・卒業制作を贈 ろう	・おもてなしの会 を開こう	
総合的な学習の 時間			・こんにちは、先 生(国際理解: アメリカ)	・私たちの町を 紹介しよう(自 然、産業)	・私たちの町を 紹介しよう(文 化)	・交流マップを作 ろう(町、アメリ カ)	・交流マップを作 ろう(町、アメリ カ)	

(4) 教科書給与リスト

特別支援学級用 教科書給与リスト(小学校用)

【知的障がい特別支援学校(以下、「知的」)の各教科】

学校名		児童氏名
学年	教科名	給与する(した)教科書名
1	生活	
	国語	
	算数	
	音楽	
	図画工作	
	体育	
	道徳科	
2	生活	
	国語	
	算数	
	音楽	
	図画工作	
	体育	
	道徳科	
3	生活	
	国語	
	算数	
	音楽	
	図画工作	
	体育	
	道徳科	
4	生活	
	国語	
	算数	
	音楽	
	図画工作	
	体育	
	道徳科	
5	生活	
	国語	
	算数	
	音楽	
	図画工作	
	体育	
	道徳科	
6	生活	
	国語	
	算数	
	音楽	
	図画工作	
	体育	
	道徳科	

- ・一人一人の教育課程に沿って教科書を選定します。
- ・「特別支援教育の手引」33ページの留意事項を参考に選定しましょう。
- ・一度給与した教科書は再度給与することはできないので注意しましょう。

特別支援学級用 教科書給与リスト(中学校用)

【知的の各教科】

学校名		生徒氏名
学年	教科名	給与する(した)教科書名
1	国語	
	社会	
	数学	
	理科	
	音楽	
	美術	
	保健体育	
	職業・家庭	
	(外国語)	
	道徳科	
2	国語	
	社会	
	数学	
	理科	
	音楽	
	美術	
	保健体育	
	職業・家庭	
	(外国語)	
	道徳科	
3	国語	
	社会	
	数学	
	理科	
	音楽	
	美術	
	保健体育	
	職業・家庭	
	(外国語)	
	道徳科	

- ・一人一人の教育課程に沿って教科書を選定します。
 - ・「特別支援教育の手引」33ページの留意事項を参考に選定しましょう。
 - ・一度給与した教科書は再び給与することはできないので注意しましょう。

特別支援学級用 教科書給与リスト(小学校用)

【当該学年の各教科／当該学年+下学年の各教科／当該学年+下学年+知的の各教科(下学年)】

学校名				児童氏名	
学 年	教科・種目名	教育課程	給与する(した)教科書名		
1	国語	国語	当		
		書写	当		
		国語	知		
	算数	算数	当		
		算数	知		
	生活	生活	当		
		生活	知		
	音楽	音楽	当		
		音楽	知		
	図画 工作	図画工作	当		
		図画工作	知		
	体育	体育	知		
	道徳科	道徳科	当		
		道徳科	知		
2	国語	国語	当・下		
		書写	当・下		
		国語	知		
	算数	算数	当・下		
		算数	知		
	生活	生活	当・下		
		生活	知		
	音楽	音楽	当・下		
		音楽	知		
	図画 工作	図画工作	当・下		
		図画工作	知		
	体育	体育	知		
	道徳科	道徳科	当・下		
		道徳科	知		
3	国語	国語	当・下		
		書写	当・下		
		国語	知		
	社会	社会	当・下		
		地図	当		
	算数	算数	当・下		
		算数	知		
	理科	理科	当・下		
	生活	生活	知		
	音楽	音楽	当・下		
		音楽	知		
	図画 工作	図画工作	当・下		
		図画工作	知		
	体育	体育	当		
体育		知			
道徳科	道徳科	当・下			
	道徳科	知			

- ・教科名の列の は小学校の各教科、 は知的の各教科を表しています。
- ・一人一人の教育課程に沿って教科書を選定します。
- ・「当」は当該学年の各教科、「下」は下学年の各教科、「知」は知的の各教科を示しています。
- ・「当・下」のように○で囲む等して、履修する教育課程の教科が分かるようにします。
- ・知的の教科を履修する場合、「特別支援教育の手引」33ページの留意事項を参考に選定しましょう。
- ・一度給与した教科書は再び給与することはできないので注意しましょう。
- ・下学年の教科に替えた場合、替えた学年で使用する教科書を給与します。この場合も、既に給与済みの場合、再び給与することはできません。

特別支援学級用 教科書給与リスト(小学校用)

【当該学年の各教科／当該学年+下学年の各教科／当該学年+下学年+知的の各教科(上学年)】

学校名		児童氏名	
学年	教科・種目名	教育課程	給与する(した)教科書名
4	国語	国語	当・下
		書写	当・下
		国語	知
	社会	社会	当・下
		地図	当・下
	算数	算数	当・下
		算数	知
	理科	理科	当・下
	生活	生活	知
	音楽	音楽	当・下
		音楽	知
	図画 工作	図画工作	当・下
		図画工作	知
	体育	体育	当・下
体育		知	
道徳科	道徳科	当・下	
	道徳科	知	
5	国語	国語	当・下
		書写	当・下
		国語	知
	社会	社会	当・下
		地図	当・下
	算数	算数	当・下
		算数	知
	理科	理科	当・下
	生活	生活	知
	音楽	音楽	当・下
		音楽	知
	図画 工作	図画工作	当・下
		図画工作	知
	家庭	家庭	当
体育	体育	当・下	
	体育	知	
外国語	外国語	当	
道徳科	道徳科	当・下	
	道徳科	知	
6	国語	国語	当・下
		書写	当・下
		国語	知
	社会	社会	当・下
		地図	当
	算数	算数	当・下
		算数	知
	理科	理科	当・下
	生活	生活	知
	音楽	音楽	当・下
		音楽	知
	図画 工作	図画工作	当・下
		図画工作	知
	家庭	家庭	当・下
体育	体育	当・下	
	体育	知	
外国語	外国語	当・下	
道徳科	道徳科	当・下	
	道徳科	知	

- ・教科名の列の は小学校の各教科、 は知的の各教科を表しています。
- ・一人一人の教育課程に沿って教科書を選定します。
- ・「当」は当該学年の各教科、「下」は下学年の各教科、「知」は知的の各教科を示しています。
- ・「(当)下」のように○で囲む等して、履修する教育課程の教科が分かるようにします。
- ・知的の教科を履修する場合、「特別支援教育の手引」33ページの留意事項を参考に選定しましょう。
- ・一度給与した教科書は再び給与することはできないので注意しましょう。
- ・下学年の教科に替えた場合、替えた学年で使用する教科書を給与します。この場合も、既に給与済みの場合、再び給与することはできません。

特別支援学級用 教科書給与リスト(中学校用)

【当該学年の各教科／当該学年+下学年の各教科／当該学年+下学年+知的の各教科】

学校名		生徒氏名	
学年	教科・種目名	教育課程	給与する(した)教科書名
1	国語	国語	当・下
		書写	当・下
		国語	知
	社会	地理	当・下
		歴史	当・下
		地図	当・下
	数学	数学	当・下
		数学	知
	理科	理科	当・下
		理科	知
	音楽	音楽	当・下
		音楽	知
	美術	美術	当・下
		美術	知
	保健体育	保健体育	当・下
		保健体育	知
	技術・家庭	技術・家庭(技術分野)	当
		技術・家庭(家庭分野)	当・下
職業・家庭	職業・家庭	知	
	職業・家庭	知	
外国語	外国語	当・下	
	(外国語)	知	
道徳科	道徳科	当・下	
	道徳科	知	
2	国語	国語	当・下
		書写	当・下
		国語	知
	社会	地理	当・下
		歴史	当・下
		地図	当・下
	数学	数学	当・下
		数学	知
	理科	理科	当・下
		理科	知
	音楽	音楽	当・下
		音楽	知
	美術	美術	当・下
		美術	知
	保健体育	保健体育	当・下
		保健体育	知
	技術・家庭	技術・家庭(技術分野)	当・下
		技術・家庭(家庭分野)	当・下
職業・家庭	職業・家庭	知	
	職業・家庭	知	
外国語	外国語	当・下	
	(外国語)	知	
道徳科	道徳科	当・下	
	道徳科	知	
3	国語	国語	当・下
		書写	当・下
		国語	知
	社会	地理	当・下
		歴史	当・下
		公民	当
		地図	当・下
	数学	数学	当・下
		数学	知
	理科	理科	当・下
		理科	知
	音楽	音楽	当・下
		音楽	知
	美術	美術	当・下
		美術	知
	保健体育	保健体育	当・下
		保健体育	知
	技術・家庭	技術・家庭(技術分野)	当・下
技術・家庭(家庭分野)		当・下	
職業・家庭	職業・家庭	知	
	職業・家庭	知	
外国語	外国語	当・下	
	(外国語)	知	
道徳科	道徳科	当・下	
	道徳科	知	

- ・教科名の列の は中学校の各教科、 は知的の各教科を表しています。
- ・一人一人の教育課程に沿って教科書を選定します。
- ・「当」は当該学年の各教科、「下」は下学年の各教科、「知」は知的の各教科を示しています。
- ・「(当)下」のように○で囲む等して、履修する教育課程の教科が分かるようにします。
- ・知的の教科を履修する場合、「特別支援教育の手引」33ページの留意事項を参考に選定しましょう。
- ・一度給与した教科書は再び給与することはできないので注意しましょう。
- ・下学年に替える場合、中学校の下学年に替える場合と、小学校の学年に替える場合があります。
- ・下学年に替えた場合、替えた学年で使用する教科書を給与します。この場合も、既に給与済みの場合、再び給与することはできません。
- ・小学校の学年に替えた場合、「地理・歴史・公民」や「音楽・器楽」は、「社会」や「音楽」となるため、1冊の給与とす。